

令和4年度第1回葉山町総合計画審議会

日時 令和5年1月23日（月）

15時～17時15分

場所 葉山町役場 3階 議会協議会室2

1 開会

事務局（大前係長）

- ただいまより令和4年度第1回葉山町総合計画審議会を開催させていただきます。今回、当初12月に予定しておりましたが、やむない事情により期日を変更させていただきました。お寒い中お集まりいただきありがとうございます。改めてお礼を申し上げます。本日、新たな委員が1名加わりましたので後ほど町の方の人事異動も加えて紹介させていただきます。また、机上に追加資料を2枚配布させていただきました。よろしく願いいたします。

臼井会長

- 令和4年度第1回葉山町総合計画審議会を始めさせていただきます。まず、今日の会議の出席状況と会の成立等、事務局から報告させていただきます。

事務局（大前係長）

- 本日の出席委員は9名のうち8名が出席されております。葉山町総合計画審議会規則第5条2項の規定によりまして過半数以上の出席が認められますので、会は成立していることをご報告致します。

臼井会長

- 1名欠席の方がいらっしゃいますが今回の審議会は成立しておりますので、この後の審議についてよろしく願いいたします。本日、傍聴の関係者はいらっしゃらないことを報告し会議を進めさせていただきます。

2 新委員の紹介

臼井会長

- 今日から1名の方が新たに委員になっていらっしゃいますので、一言ご紹介いただければと思います。加藤委員、どうぞよろしく願いいたします。

加藤委員

- 葉山町連合町内会の会長です。ずっと葉山に住んでいるので葉山のことはある程度わかっていると思います。よろしく願いいたします。

臼井会長

- 事務局の方も異動後、初めてになりますので自己紹介お願いいたします。

事務局（町田部長）

- 政策財政部長の町田です。どうぞよろしく願いいたします。私もご無沙汰です。平成27年度か

ら4年間政策課長をしておりました懐かしい面々に久しぶりにお会いでき嬉しく思います。3年間総務部長を経てまた政策財政部に戻ってまいりました。この3年間いろいろあり、新型コロナウイルス感染症や世界経済情勢が非常に不安定になっている中、1年先さえ見通せない状況の中で、この総合計画はじめ計画行政にどのように向き合っていくか、毎日佐野課長と頭を悩ませております。いずれにしても行政だけで舵取りができない時代なのは確かなので、皆さまからいろいろな意見を伺いながらやっていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

事務局（大屋主任）

- 本年度4月から環境課から政策課に異動して参りました。環境課では、廃棄物や地球温暖化対策を担当しておりました。政策課で総合計画審議会に携わらせていただきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

臼井会長

- 町田部長、大屋主任からご挨拶いただきました。続いて資料確認を事務局からお願いいたします。

事務局（大前係長）

- 事前に郵送させていただいたものと本日机上配布したものとがあります。（説明省略）

臼井会長

- それでは、資料確認が済んだので議題に入っていきます。

3 議題

（1）令和3年度第四次葉山町総合計画実施計画事業の振り返り結果について

臼井会長

- 令和3年度第四次葉山町総合計画実施計画事業の振り返りについて資料1-1から1-4の説明を順番にいきたいので事務局からお願いします。

事務局（大前係長）

<資料1-1 振り返りの基本的な考え方について>

- （2頁）実施計画事業の振り返りの基本的な考え方について、第四次総合計画は平成27年度からスタートして令和6年度までの10年間を基本的な計画期間としています。その中で令和3年度をもって7年が経過し、今、令和4年度ですので、もうすぐ8年目も終了しようというところまで来ています。この総合計画は毎年P D C A サイクルに基づいて振り返りを行うことで進捗管理を行い目標達成に向けての取り組みを確かに進めていくものです。
- （3頁）総合計画のどの部分の振り返りをしているかという点、第四次総合計画は「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3層構造になっており、一番下の部分である実施事業計画部分の振り返りを毎年行っています。令和3年度は、夏に実施計画部分の200事業の振り返りを行いました。
- （4頁）第四次総合計画は、葉山町の中期財政計画と連動を図っております。この中期財政計画も総合計画同様に平成27年度から令和6年度までの計画期間となっています。

- (5頁)この振り返りと予算編成の関係、スケジュールは、年度終了後に各課で振り返りを行い、その後毎年8月に政策課と財政課で合同ヒアリングを行なっております。その後次年度の予算編成作業に移りますが、本年度から新たに「サマーレビュー」という取り組みをヒアリングの中に取り入れております。これは夏の段階で次年度以降、今でいうと令和5年度以降、多額の経費を要する事業や懸案事項を予め洗い出したものを共有し、次年度の予算編成に活かしていこうという考えのものです。今までは11月に予算入力作業を行いその後、財政査定を行っていたのですが、予算査定までの期日が短く十分な議論ができないという問題が生じていたので、本年度からサマーレビューを踏まえ予算の入力時期も少し早め、予算査定時に十分な議論ができるようにスケジュールを変更しています。今後のスケジュールとしては、3月に町ホームページに振り返り結果を公表して皆さんにお知らせしていこうと思っています。

臼井会長

- 資料1-1を中心に振り返りの基本的考え方について説明いただきましたが、質問意見はありますか。ないようでしたら先へいきます。では、資料1-2の説明をお願いします。

事務局（大前係長）

<資料1-2 第四次葉山町総合計画実施事業振り返り事業の結果（令和3年度版）>

- 令和3年度は新型コロナウイルスの影響で一部事業が実施できない事業がありました。どうしても感染拡大を防ぐためには必要な措置ということでご理解いただければと思います。今回の総合計画実施事業の振り返りは、6～7月にかけて各課単位で二つの視点をもって行いました。一つ目は「有効性」という視点。基本計画に掲げる施策の目指す姿を実現するためにこの施策が有効かどうかという点から振り返りを行うもの。二つ目は「効率性」の視点。予算・人材で最大な効果が挙げることができたかという点。例えば、その事業は他部署や県などと協働で連携することはできないかという視点。この2点において振り返りを行っています。この振り返りを8月に前年度同様、葉山町で実施計画事業を持っている18課のヒアリングを行いこのシートを作りました。振り返りの趣旨としては、振り返り結果を元に次年度の予算反映に活かすこと、そして、新型コロナウイルスにより事業にどのような影響が生じていたかを確認するためということです。このヒアリングにあたり各課に作成してもらった振り返りシートをまとめたものが今回の資料1-2の表です。
- 資料1-3はこの中で「改善して継続」する20事業を抜粋したものです。字が小さくて大変申し訳ありません。資料1-4は、事業の方向性を「終了・廃止」としたものを3つ載せています。全部で200の事業があり、全事業を説明するのは厳しいので概要だけ説明させていただきます。

<資料1-2 総括表>

- 4つの理念でまとめた事業の有効性・効率性で評価し今後の方向性をまとめた集計表です。各基本理念の事業費の総括表の「実施計画事業費A」は、令和3年度からスタートした第四次総合計画(後期基本計画)を策定した際の事業費で当初予算ではない点に注意いただければと思います。

基本理念毎に実行率に大きな隔たりがあるので、乖離が大きな部分の説明させていただきます。

(基本理念1 人を育てる葉山 3つの柱(基本施策)に84実施計画事業が紐づいている)

- 基本施策3：子どもが健やかに育ち安心して子育てができるまち

計画枠額は12億5236万7千円に対し決算は11億3,932万4千円と1億円以上の乖離が発生しています。理由としては、子ども育成課の事業で教育保育給付支援事業があり、この計画額が8億2千4百万円に対し決算額は約7億3千万と1億円近い乖離が生じていたことが大きな原因になります。乖離が生じた理由を子ども育成課に確認したところ、この事業は民間保育所へ入所委託や幼保無償化に伴う保育園や幼稚園に給付を行う事業ですが、特に子育て分野については制度改正が激しく、急に幼保無償化の話が出る、保育士待遇改善のための制度改正がある等、見込めない部分が多様にあり、入所児童者数も変数が大きく正確に予測することが難しく、どうしても事業計画額としては余裕を持って確保しています。しかし、実際、蓋を開けてみるとそこまでいかなかったということもあり、結果として実績と計画額が乖離してしまったという理由です。

(基本理念2 暮らしを守る葉山 3つの柱(基本施策)に76実施計画事業が紐づいている)

- 基本施策6：豊かな自然に囲まれた中で環境に配慮しながら安全で快適に暮らしているまち

この中の計画額は20億4,283万円の計画に対し決算は13億7,586万円と約6億7千万の乖離が生じています。理由としては、下水道課の下水道整備事業の計画額が10億2千万に対し決算は4億6千万円だったため6億円以上の乖離が生じています。理由を確認したところ、管渠整備の中で予算を確保して執行していましたが、一部、本線から私道の工事をする必要があったため工事を積み残してしまったために乖離が生じており、これは令和4年度(本年度)に繰り越して今年度に終了する予定となっています。

(基本理念3 活力を創造する葉山 3つの柱(基本施策)に27実施計画事業が紐づいている)

- 基本施策7：誰もが住みやすく暮らしやすい環境が整っているまち

計画が2億5千7百万に対して決算が1億9千万と約6千万の乖離が生じている状況になります。理由としては、道路河川課の河川整備事業という川の整備をする事業で毎年、緊急工事を含めて余裕のある予算取りをしています。令和3年度は大規模な氾濫などもなく簡易な修繕事業のみの支出のみだったので不要額が出ました。その工事額が38万円で済んだため2千万円ほど実績と乖離が生じたというのが原因です。もう一つ、都市計画課の街路整備事業という葉山町の街路にするための用地買収をする費用として2千3百万円の予算を取りましたが、実際の執行額は79万円だったためその2千万円はどこに行ったかという、公共施設課という用地を買収する部署に執行委任という形で予算ごと渡しており、残りの約2千万円で公共施設課が用地買収を行ったというのが原因です。都市計画課としては、最初、予算を立てたが別の課にお願いしたという理由で乖離が生じているということです。

(基本理念4 みんなでつくる葉山 2つの柱(基本施策)に13実施計画事業が紐づいている)

- 基本施策10：町民の満足、納得度の高い行政サービスを常に提供しているまち

計画が 3672 万円に対して実績が 4,131 万円でプラス 460 万円ほどの差が出ています。増額の理由は、政策課の事業の中で町内会支援事業があり、この中で毎年度宝くじ協会から「コミュニティ助成」をいただいております、令和 3 年度は 3 つの町内会に 490 万円の支援を受けることができたため、当初、計画はできなかつたのですが結果として助成金がついた分プラスの金額になっています。

- 資料は各実施事業の詳細になります。字が小さくて大変申し訳ありません。
＜資料 1-3（再掲）事業の方向性を「改善して継続」とした事業＞ 全 20 事業一覧
＜資料 1-4（再掲）事業の目的達成や状況の変化に伴い「終了・廃止」となった事業＞
- 令和 3 年度をもって廃止することになった 1 事業、令和 4 年度に終了する 1 事業、令和 10 年度までに廃止する 1 事業の合計 3 つの事業一覧
- 雑駁な説明で恐縮ですが資料 1-2 に関する説明は以上です。

臼井会長

- ありがとうございます。第四次葉山町総合計画実施事業振り返りとして資料 1-2、併せて資料 1-3 と資料 1-4 を説明いただきました。何か質問や意見はありますか。

近藤委員

- 説明ありがとうございました。分類の仕方が資料により違うので、紐づけるのに私の理解不足があったらご容赦いただきたいと思います。
- 資料 1-2、1-4 <基本施策 70> 事業の方向性で終了・廃止・休止したとあります。子育て支援サービス、様々な幼稚園・保育園に対しての運営的補助を段階的に無くしていくということですが、説明の中に幼保一元化を見越してとありますが、幼保一元化ができていなくてなかなか一つになっていない経緯があり、事業の目的のところを見直すべきなのではと思います。これだけ見ると子育て支援サービスを打ち切ってしまう誤解を与えかねなくて、私が日々の活動をする中、地域の偏在性がありますが、子育てニーズをたくさんいただいています。運営費のところは制度の改正もあるので一定の理解はできますが、「子育て支援の住民満足度を上げる」、「待機児童を解消させる」等、書きぶりや目的を変える等して子育て支援を拡充していく方向で、私は継続すべきだと思います。これだけ見ると誤解を与えかねないし、長柄では、なかなか学童に入れないという声も届いています。0～2 歳の保育という小さいところですが、コロナ禍にあつて葉山町の子育て世代住民の社会増が増えている中、先ほどの説明でもニーズの変動があると言われていましたが、少なくとも令和 3 年 4 年、エリアに偏在性がありますが微増でニーズが高まっているところもあるので、葉山町全体として一括りで段階的に廃止という書きぶりは少し再検討された方が良いのではと、あくまで意見であります私の率直な感想を伝えさせていただきます。

事務局（大前係長）

- 70 番幼稚園補助事業につきましては、教育総務課から出ている補助金になりますが、子ども育成課にシフトしていくので、教育総務課の事業としては無くなります。今、待機児童の解消に向け

た動きは、教育総務課と子ども育成課の二つの課で似たような事業をしているので事業の再編という形でスライドしていく形でイメージしております。言葉が足りず申し訳ありません。

高梨委員

- そちらの専門なので今のところに付け加えて、幼児教育と保育の管轄がそれぞれ文部科学省と厚生労働省というところもあり、いろいろ議論がある中で行政の中でも難しいことは重々承知いたします。その一方で、この書類だけが出てしまった時に一人歩きして反対の意味に取られてしまう可能性があるのは、事業の目的と事業名が合わなくなっているのが一番の原因だと思います。「終了・廃止」というよりは「統合・発展」という方向に書きぶりを替えていくのが望ましいと思いました。

事務局（佐野課長）

- ご意見ありがとうございます。おっしゃる通りこのペーパーだけを見るとこの時代に子育て施策を打ち切るのかと誤解を受けるといこと、この幼稚園補助事業は、確かに子育て施策充実のためにやっていたのですが、この事業で何をしていたのかは見て取れないので誤解されやすい。特に「終了・廃止・休止」するものについては、極めて少ないので、このペーパーの作りを次回以降再検討して、見た方が何故そうなのか分かるような形で記載させていただきたいと思います。

高梨委員

- 付け加えてなのですが、廃止というよりは、縦割りで細々するより連携できるところはするという趣旨を生かしていくべきだと思います。ですので、この事業に限らずやめるのではなく「統合・発展」になれば良いと思いました。

事務局（町田部長）

- 具体的な一例で、幼稚園補助事業としては令和10年度で廃止は間違いありません。あくまで既存の枠組みの中で幼稚園に対する補助はやめますが、例えば来年度予算、まだ内示していないので詳しくは申し上げられないのですが、ある幼稚園に認定子ども園を新たに開設する動きがあります。そういった形で子育てサービスは時代に即した形で展開していきますので、形を変えてサービスエリアを充実させていくという見せ方をしていかななくてはけません。ここだけ切り取られた形で見ると誤解を生むので公表の仕方を考えさせていただきます。

臼井会長

- とても貴重なご意見ありがとうございました。町も意識しているようなので、町民の方に不安を与えたりしないような形でなるべく説明をしていただくことが大事なので、どうぞよろしく願いいたします。

高梨委員

- 書類を見ていて、達成率の決算値が欠損のままエラーで出ているところがあるところがあるのでそこは修正されるのが望ましいかと思います。また、達成率の数値を出さないけれども成果があるという評価のものは、指標をどのように見ているのか、難しいとは思いますがそのような部署が多

いように感じました。一方、達成率は 50%を切っているのに「達成できている、このままいく」となっている評価の事業は、そろそろ後半で計画年度が押し迫っている状況で本当に大丈夫なのか、どのように協議をされているのか、特にヒアリングされた立場で全体的に問題はないと考えているのか教えていただけたら嬉しいです。

事務局（大前係長）

- 例年いただいているご指摘で大変申し訳ありません。各課によっては奥ゆかしい課もあり、目標数値が達成しているにもかかわらず、まだまだこれから改善の余地があると答えるところもあれば、逆に数字だけ見て大丈夫かと言いたくなる課もあります。我々としては、話を聞きながら修正できるところは「これはA評価で良いのではないですか」、「これはB評価でなくて良いのですか」等と話をして双方納得した上で掲載させていただいています。若干、肌感覚が欠いている部分もあるのですがご理解いただけると幸いです。

高梨委員

- はい、特に大きな支障はなさそうなのだと理解してよろしいでしょうか。ありがとうございます。先ほど話をされていた「サマーレビュー」のところで、例えばコロナ禍の話も少し出ていると思うのですが、何か大きな変更等が次年度のところでありそうなのか可能な範囲で教えていただけたら嬉しいです。

事務局（佐野課長）

- 今年、新たに町田部長が政策財政部長になり、主に財政面での課題で、先ほど事務局から説明があったように次年度予算の検討時間が短いかということも含めて、検討が不十分なままに予算を見送るということが毎年散見していました。そこで、サマーレビューは、検討の時間をきちっと取るために、あるいは理事者に「来年度こんなことをしていきたい」等、予め政策判断的なものを早めにしてもらうという意図でスタートしたものです。主旨的には時間の部分と理事者に早いうちに来年度の政策課題について進めていこうという部分を中心でサマーレビューを行いました。

高梨委員

- その中でこの振り返りと何か結びつくことで私達が知っておいた方が良いことはありますか。

事務局（町田部長）

- サマーレビューの実施の目的は、今申し上げた通り、また、私が冒頭の挨拶で申し上げた通り、これだけ変化が激しい中、町の政策決定を瞬時にしなくてはいけない予算編成のスケジュールに余裕を持たせたかったことです。夏場から課題を整理したおかげで、原課、各事業課が予算計上するにあたり宿題事項を今までよりしっかり整理できるようになったので、「コロナによってどのような事情が生じたのでこれからこのように変えていこう」、「物価の高騰でこのようになってるのでサービスを少し拡充しよう」等、考える時間ができたことは事実です。具体的にどこをとというのはこの場で話をすると長くなるので、変化をする時代の流れに対応できるようになったというのが一言で言うとサマーレビューの成果だと思えます。

高梨委員

- ありがとうございます。

加藤委員

- <基本施策 146> 消防団関係と防災の絡みで、消防団の資機材は充足しているという話ですが、消防団員の充足率を絡めて町内会で防災安全課と活動していると、地域での自助・共助・公助を考えて防災安全課ともっと連携しないといけないと思います。防災安全課の訓練等も少ないことでもあります、我々町内会の意識がないのがいけないのかもしれませんが。最近災害も多い中、その辺の考えがあれば伺いたいです。

事務局（町田部長）

- その点については、まずサマーレビューで消防と防災と私達で議論をしたのですが、そもそも本来の消防である常備消防と地域の非常備消防の役割分担は今の時代どうなのか、非常備消防の消防団員の定数はずっと変わっていないという考え方を整理しましょうと言う投げかけをしました。その結果は私もまだわからないのですが、地域と本消防の役割分担は時代が変わっている中、ずっと固定化しているのも良くないと言う話はしました。防災安全課の地域を巻き込む訓練についてもこの2～3年はコロナ禍で訓練ができていない中、災害はコロナを待ってくれないので、コロナ禍の中でどのような訓練ができるか考えていきたいと思いますという話もしました。今年度からビックスキュー神奈川も再開し地域の訓練も少しずつ始まってきているので、来年度あたりから少しずつ動き出していこうと考えています。

八木委員

- 先程、近藤委員からも指摘がありましたが、資料の色がリンクしていなくて見づらいので、せっかくなら色をリンクさせた方が何処のページかわかりやすいと思います。

近藤委員

- 加藤委員から災害と消防との話がありましたので、本日、松井商工会青年部部長が来られていて消防団で地域の活動をされているので現場の話は松井委員の方が詳しいと思いますが、共助と自助があり、防災安全課の事業 No. 149 防災実施支援事業の達成率がゼロというのは、コロナ禍でできなかったということでしょうか。重ねて、コロナ禍だったからなのかと類推するのですが、私の活動する中では地域の自主防災組織によるところがとても大きく、知っているところでは、防災士になる助成をやっています。ここに「リーダーシップの研修」と書いてあるので事業の提案になりますが、防災士になる助成等、資格があるとインセンティブというか研修に出る動機にもつながるのではと思います。このゼロパーセントは魅力がないということでないのであればその限りではないのですが、意見も含めて申し上げます。

事務局（大前係長）

- こちらの実績がゼロというものについては、新型コロナウイルスの影響で事業を中止したという経緯があり実績値がゼロになっております。

近藤委員

- 防災士の資格は決して難しくないという語弊がありますが、資格を持っていると活動に信憑性が出るので、お隣の逗子市では、市が助成しているわけではないけれど、勝手にそれぞれやっていて、その自主防災組織の活動内容が非常に良いので意見として申し添えておきます。

事務局（町田部長）

- 防災士の資格取得とは町が定める自主防災組織のリーダーとはリンクはしていないのですが、近藤委員が言われた考え方としては我々も採用しており、今、その補助制度は防災資機材購入の助成の確保、規模を少し縮小して人の養成、町で定める防災リーダーの養成にシフトしています。物があってもそれを扱える人がいないと物が無駄になってしまうという考えの元、災害が発生した時に地域の力、共助がないと公助だけでは災害対応ができないのは火を見るより明らかなことで、そのような考えをとっております。防災士の件についても取り込めるか考えていきたいと思っております。

臼井会長

- 地域の人を育てるといのはとても大事な話で、専門性の話までいくと面倒になりますが、地域社会になれば必ずその地域社会に伴って必要なニーズはいくつか想定される訳で、それを主体的に地域の中で頑張ってください方を継続して育て続けることは、地域社会を存続していく上でとても大事なことだと思います。社会にいろいろな状況があったとしても、地域社会を支える続ける上で自治体の大事な動きだと思っておりますので頑張ってください。

高梨委員

- 改善をしようとしている事業の中の健康系のところで、例えば、ワクチン接種、風疹の予防等のところの数値がなかなか上がらないという事が出ているのですが、上がらない理由の調査ができるのかどうか。例えば、接種会場の近辺で接種に来やすいエリアの人は打てるけれど、なかなか来るのが難しい人は受けない等、何か理由があるかもしれないので。これから接種率を上げていこうという趣旨は読み取れるのですが、どのような対策が可能なのかは実質のところ難しいのかと思いました。今回、アンケートをするなら一緒に抱き合わせで聞けば良いかとも思いました。

事務局（佐野課長）

- 全て細かいところまでわかっていなくて恐縮ですが、例えば、女性の健診に於いて、これまで乳がん検診ができなかったのですが、とても高価な機材を地域の中の医療機関に入れてくれて、今まで外に行かなくてははいけなかったのがそこで女性検診を同時に受けられることにすごくメリットがあるという話があります。また、検診車での検診は、これまで逗葉地域医療センターに行かなくては受けられなかったのを葉山町の地域に検診車を回して受診率の向上に繋がったという話を所管課から聞いています。受診する方が受けやすくなるように葉山町自体、医療機関が充実していない部分もありますが、機材がとても高額なこと等を調整しながらお願いしつつ、少しずつ受けやすい体制を作っているという話を聞いています。

近藤委員

- <基本施策 No180> 地域の魅力の部分、産業振興で一次産業支援を実施計画に打ち出しているのは良い事だと思っておりますが、このNo180は極めて具体的だと思えました。これは国の交付金事業であり、幅の広い交付金事業ですので書いているのだろうけれども、他にも国の補助、特定財源を使った事業メニューがあるので、この書き振りが良いのかという疑問があります。通称、ハマプラン等の事業補助がある中、これだけ特出しするのはどうかという感覚を持ちましたので意見として申し添えておきます。

事務局（町田部長）

- おっしゃるとおり、町としては一次産業に光を当てた支援は、ご存じの方もいるかもしれませんが、昨年の12月の補正で物価高騰対策ですが、農業者の肥料の高騰に対する支援と漁船に対する燃料費の支援、畜産・葉山牛の飼育者に対する飼料の補助等、多面的にやっております。そのような形で総合計画の実施計画事業にこれだけピンポイントで載せて、他は載っていないというのもありますので、全体的に多面的にやっているという見せ方を工夫して、せっかく実施しているので説明責任という観点から検討したいと思います。

臼井会長

- 1年後に今の四次の計画が完成し、その次に第五次の総合計画策定を作っていく時に今の話のやりとりがあったことを意識してどのような見せ方をするのか、全部を見せるとボリュームが大きくなり過ぎるが、町民の一般的なところをターゲットにしながら葉山の魅力を発信することも意識しながら計画ができると良いと思います。また次年度以降、改定の議論の時にも注視したいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。
- 私から一つ、全体的な話ですが、コロナがあつて事業の進捗が厳しかったと思いますが、1枚目の数字だけ見ると財政的にはお金が余っているように見えますが、これは計画事業の中の話なので全体でお金が余ったかどうかはこれではよくわからない。コロナ禍のために予算的にどうしてもやめなくてはいけないことが多々あったと思いますが、例えば、今回の厳しかった状況の中で事業進捗が上手く進まなかったが故に次の計画に事業を繰り越しながら改めて力を入れる余裕があるのかも含めて、予算状況を総括的にコメントしていただけるとありがたいです。

事務局（町田部長）

- 私は財政の所管もしているので概略を説明させていただきます。コロナ禍で事業がどうしても制限されているものが多々ありました。人が一堂に介してやるイベントもの等は、ここ数年中止していたものもあります。また、大規模改修事業、投資ものについてもコロナ禍によって税収にどれだけ影響があるか見えない怖さがあり、リーマンショックの時のように3年間で多くの歳入が減るのではないかという疑心暗鬼の中で事業を絞っていきました。結果を申し上げますと、この3年間、町税は57億円台をキープでき全く減っていない状況で影響は限定的でありました。結果論になりますが、令和3年度からの前年度繰越金が多く、その結果として基金の積立額も積み増し

ができた状況です。それを踏まえて令和5年度の当初予算をどうしようか、今、正に大詰めを迎えているのですが、山梨町長がどのように表現するかわからないのですが、コロナ明けに向けての転換をする形になると思われませんが、一言で言うと積極的な財政へ少し舵切りになるのかと思われれます。舵の切り方はこれから詰めていきますので然るべき時にご説明したいと思えます。

臼井会長

- 今日は振り返りがメインですが、この振り返りが終わった後、次年度からは次の総合計画策定に入っていきます。その時に今、部長から少し積極的な方へ舵を切られるかという発言がありましたが、令和5年度の当初予算の出来上がりを見た状態できちんと詰めていくところもあり、とは言ってもそれを一気に使う話ではなくて、町の住民のニーズの優先を考えながらどのような取り組みができるのか、5年度の当初予算の様子を意識した上での計画になるという理解でよろしいでしょうか。

事務局（町田部長）

- 基金の積み増しができている状況の中、とはいえ公共施設の老朽化問題、これから数年先に投資しなくてはならない、目先でいうとクリーンセンターの再整備を今行っております。具体的な数字を申し上げますと令和6年度は施設の建設が中心になるので、クリーンセンターの再整備だけで7～8億円の投資が控えております。それ以外の老朽化施設の対応も考えると基金が積み増しできていますが一気に使うわけにはいかないの、どこに力点を置いて重点的に投資していくべきか考えなくてはなりません。

臼井会長

- ただ明るいのは、逆に絞るだけでなく必要なことに対しては一定の範囲で対応できる状況に展開しつつあるということ。全部ではないけれども本当にやりたいことについては対応できる余地が3年間に少しストックして積み上げる事ができた意識しても良いのかもしれない。とは言っても楽観視するという話ではないので、今の話を確認した上で次年度以降対応していけば良いと思います。

福安委員

- 2～3年前にコロナが始まった時に、当初、東京から出ていく人が増え、コロナ期間は葉山町にプラスになったのかと思っていました。このミーティングでもビフォアコロナとアフターコロナで考え方を変えていかなくてはと、おそらく葉山町としては人や事業を呼び込む千載一遇のチャンスなので何か新しい視点・視野で新しい事業をやっていくことも考えたらどうかと申し上げたような気がします。振り返ってみて、元々計画があったわけですがそれとは別にポストコロナで新たに人を呼び込む事業等始められた事があったりするのでしょうか。

事務局（大前係長）

- 具体的に何をではないのですが、概略として、コロナ禍になりリモートワークが中心になる家庭の方が多く、この地に引っ越してこようという動きがありました。令和2～3年年度は転入が多

いという実情があり、福安委員のおっしゃるように葉山町にとって千載一遇のチャンスだったのかと思っております。今回、コロナ禍もあり、学校でも「GIGAスクール構想」が一気に進展して、今、お子さんに一人一台タブレットを持った教育が急速に広がっています。その中で今後例えば、Wi-Fi等の通信環境の話し等、学校は既にWi-Fiがつながっていますがもう少し広い分野でできないか検討している段階です。

福安委員

- コロナ期間に人が転入してきただけでなく、例えば、葉山町に起業家や葉山町に事業を移してくるような傾向はあったりしたのでしょうか。

事務局（大前係長）

- 事業者が引っ越してきたかというところまではわかりませんが、産業振興課で新規就業者を支援している制度があり、令和3年度に25件ほどあり伸びているという状況にあります。

臼井会長

- 今の質問の趣旨はわかりますが、議論がとても難しいところで、葉山は潜在的に知名度がありイメージが良いので、何かをすれば人を集める潜在能力は高いと思います。ただ、逆に言うと、葉山町自体は開発をすることに対して距離を置いて、つまり変に開発すると葉山らしさが損なわれるという矛盾した話になってしまうので、葉山らしさを活かしながらどうやって多くの人に葉山の良さを理解してもらうかが一番難しいところです。そんなに大きくない町なので、鎌倉には大河ドラマの影響で人が集まっていますが、私は生まれたのが鎌倉で小学校に入るまで鎌倉にいた人間で、とっくの昔に離れてはいますが、観光客が多く来過ぎると普通の街としての機能がしづらくなるまで人が来てしまいます。その辺り、どの辺で帳尻を合わせながら、でも葉山の人が生き生きと生活して、葉山を訪ねて来た人もリフレッシュして帰れるところをどうやって作っていくのかという息が長い問いで議論をしていくのが良いかと思います。お客さんを奪い合うような話になると、葉山に人が集まれば、逆に人が来なくなる人が出てしまうので、そのような奪い合いではなく葉山の本当の良さをどう発信するのか、地に足のついた長い取り組みをしていただければ良いと思います。ご質問の趣旨はとてもよくわかりますが、例えば、横浜の中華街にたくさんの方が来ますが、昔の中華街の良さは失われていて、肉まんの食べ歩きをする人が多く飲食店にどのくらいお金が落ちているかは疑問というような話になっています。鎌倉も似たようなところがあり、実は古くからの店はそんなに多くなくて、もっと典型的なのは京都で老舗の店は本当に古いだけでも老舗っぽい店はというと実は開店して10~20年しか経っていない店が山ほどあります。葉山の魅力が一過性のものでなく恒常的にするには何が一番良いのか、しかも葉山で時間を過ごした方にとって喜んでいただけるようなものとして確保し続けられるのか、改めて皆さんで議論を計画の中うまく落とし込めると良いと思いました。大事な話なのですがとても難しいです。

高梨委員

- 今の話を聞いていて、ふるさと納税の議論も以前お話ししたような記憶があります。その話も同じところなのかと思いながら聞いていました。感想だけなのですが、近隣の市などでは大手のサイトから大きく出していますが、そういったところをどうするのかと気になりました。

臼井会長

- 変な話ですが、目的を持ってふるさと納税をうまく使うのは正解です。「葉山の魅力を生かすために使うものとして協力してください」と言って葉山の魅力の一環になるものを返礼品で出す様に活用すると意味があるのですが、単純に税収を増やすために出すのでは品がないし、葉山もそのようなことをするのかと言われかねません。

高梨委員

- それが里山や海等の環境保全のことにリンクしていくと良いと思いました。また、空き家の話にも結びつくと思います。

加藤委員

- <基本施策 No. 154> 勉強不足で申し訳ないのですが、防災資機材とは、町内会が買うときに補助金を出してくれているものですよね。町内会連合会への防災資機材備蓄食糧整備事業は、これは認められてこれは認められないなど難しいけれども何年も続いているし毎年申請しないといけないので、ほとんど共助できる資材は整っていてダブリも多くある状態です。第五次の時はもっと見直してやるべきだと思います。物の議論もあるし、28 町内会で話を聞いていると無理やり申請している部分もあります。何かの視点を変える等した方が良いと思いますがいかがでしょう。

事務局（大前係長）

- 防災資機材について、加藤委員が言われるように長年にわたり各町内会で災害用にあつた方が良いものとして、例えば、自家発電機や車椅子等を購入しているものになります。ただ、防災安全課も既に町内会で基本的なものは大体全て揃っているのではないかとということで、今後は町内会に対して資機材の補助ではなく実際の災害時に役立てるような人材育成の研修等にシフトしていこうと考えを持っています。今後はそのような方向になると思うのでよろしく願いいたします。

事務局（佐野課長）

- そういった議論は当然あり、見直していこうという話がある一方、連合会長さんの耳にも入っているかと思いますが、水や食料などの備蓄については、一定期間でローリングしないといけないので、一時はこれを廃止するという話もあつたのですが、そこは内容を見直し継続しつつ人材育成にシフトしていくという話になっていて、決して今のことを全部やめてしまうわけではありません。防災安全課では、これはこれで考えつつ今まで通りの資機材整備ではなく、必要なものは何か、ローリングさせなくてはいけないものは何かを考えつつシフトしていきたいということです。今の段階では、そのような要望をいただいているので完全に廃止する気はないということです。

加藤委員

- そのようなことなら良いのですが、簡単に言えば機材は殆ど充足していると思うので、課長の言われたような食料は今後も考えていただければ非常にありがたいと思います。

近藤委員

- 先程、福永委員から起業支援の話がありましたが、町の持続発展性を考えると、起業の支援や移住、定住支援等の政策誘導は非常に大事な事だと思っておりますがそこは置いておいて、今回の振り返りの中で<基本施策 No. 194>高梨委員からお話があった「空き家対策」の関係で、「移住したくて何処か引っ越す物件ありませんか」という連絡が私のホームページにたくさんありました。不動産屋でも不動産バブルは終わっていて住む場所がない、売る物件がないとのこと。「空き家」の成果として「助言指導で空き家の改善数」が10件、成果件数10件、達成率100%とありますが、この総数の分母がよくわからなくて絶対潜在的にはもっとたくさんあるはずで別荘の話もあります。第五次実施計画を作る時には、葉山町はかなり注力してやるべきだと思います。今日は振り返りが議題にありますので10分の10の達成値が、現場の声としてこの数値をどう理解したらよいか伺いたいと思います。

事務局（佐野課長）

- ご存じのとおり、空き家対策については空き家対策措置法で特定空き家、言ってみれば管理不全の空き家が社会的問題なので、まず行政として一義的に取り組まなくてはいけない事は、管理が行き届かない空き家を少しでも減らそうという話だと思っております。一義的にはと申し上げたのは、まず最優先すべきは管理不全をなくすことだと議会でも答弁をしているため、この指標を立てております。その一方で空き家バンクを昨年4月に立ち上げましたが残念ながら登録数はゼロです。これは実は、スタートする前から空き家バンクの難しさを承知していたのですが、もしかしたら不動産屋で取り扱うのが難しい物件が行政になら流れてくるのではとスタートしたのですが、その前に行ったアンケートからは殆どの人が「いつかは葉山に帰って来ようと思っている」、あるいは「子どもに資産として残したい」という話もあり、当然、個人の資産なので町の方で高く買うというわけにもいかず、管理不全物件に関しては、「是非、譲渡や人に貸すことを考えませんか」という働きかけはしていますが、いずれにしても受け身にならざるを得ません。そのような中でどのようなマッチングができるかが一つ政策的な課題だと思っております。実は、先週、6件の特定空き家候補を最終調査という段階で回ってきました。「このような状況なら売却も視野に入れなくては」、「このままだと固定資産税がとてもし上がってしまう」等と話をしつつ、所有者に働きかけている状況ですので、今の貴重なご意見を賜りながら町としてはまず一義的にやるべきことは、管理不全空き家をなくすこと、その一方でマッチングをいかに進めるかを課題として考えています。

近藤委員

- 話としては理解をするのですが、この中に「関係団体との協定」と書いてあるのが良いと思います。というのは、何でもかんでも行政がということではないと思っておりますが、先進事例を見

るとマッチングの仕方でも町行政の後ろ盾があることが大事なので、その辺の情報収集に努めていただきたいと思います。次の実施計画を楽しみにしています。お願いします。

臼井会長

- ここに銀行の支店長がいらっしゃいますが、例えば、リバースモーゲージ等の制度を使っている方が横浜銀行で承知しているだけでどの位いるか等のような話を場合によっては情報として使えます。ご本人が活着ている間はご本人が使い続けるけれども、相続の時には子どもに残すのではなく別の使い方手放すことを前提に考えているという人も金融機関で調べればわかる。例えば、いくつかの金融機関にあたっていただくだけで葉山町にどのようなケースがあるのか少しわかるので、もし可能であれば、次の計画を作る時にもう少し前に出られるかどうかを検討する中で、情報収集してみるのも手かもしれません。町が借りる、あるいは、町がもう少し主体的に関わっているという話はそれとして、潜在的に活用しうるニーズがあることがわかるだけでもだいぶ違うと思うし、他所の地域ではこうだけど葉山町では裕福な人が多いからリバースモーゲージの制度は使っていないという話があればそれはまた話が違うわけで、少し情報収集してみることも手かもしれません。内部情報だから支店長さんができないと言えばそれまでですが。支店長さんがということではなくて町から金融機関に例えば可能な範囲でそのような制度を持っているか問い合わせることもありかという話です。何かもう少し良い方法はないかとずっと考え続けていますが、そもそも町に空いている土地はないわけで、土地の話で新聞に載ったのは、何十年か前の旧庁舎の話位で殆どないです。そうではなく使えそうな町内の財産をどのように探していくかという時に候補になる一つにもなるので、議論をもう少し深められると次の計画時に有効活用のための方策の一つでも打てれば良いのでよろしくお願いします。

福安委員

- 空き家の件もそうですが、横浜市を見ていると、まちづくりに企業の事業がとても貢献しています。大きな企業でなく地場の若い方がやっている新しい起業がまちづくりに対して積極的に提案して事業をやっている結果、街が変わっていくプロジェクトをよく耳にします。葉山町でも例えば空き家という課題があります。これを活用するために地場の若い人等が事業で使っていくというような流れを生み出せると良いと思います。

事務局（佐野課長）

- ご意見ありがとうございます。実際に一昨年、水道が停められているところ、ごみが出されないところ等を担当が回り、それらしい物件の所有者にアンケートを取ったところ250件ほど回答がありました。特定空き家になると思っていたのですが、実は「たまに来ています」、「今は使っていないけれどもいつか使おうと思っています」とアンケートで回答があり、百の単位で空き家と思われる存在があるのですが、そのアンケートの中では、「どうやって声をかけたら良いかわからなかったが、実は貸したい、売りたい」という情報も少ないですがあるので、そのような情報でもう少し地権者と近づいて相談に乗ることができれば、マッチングの一つの方策として進められ

るかと思えます。どうしてもマンパワーの問題があり、今、管理不全の空き家対策のこと、統計事項のことや課のことを一人で見ている現状があり、空き家関係等、優先順位をつけてやっている状態です。いずれにしてもアンケート結果を見ながら所有者とまずは話をしてみることが必要になってくるので是非、参考にして前向きに取り組んでいきたいです。

臼井会長

- これもシンボリックな取り組みが一つ二つ出るととても良いと思えます。

近藤委員

- 今の話は良い話です。

臼井会長

- 鎌倉ではお寺が地所をたくさん持っていて、そこに古い空き家がありそれを活用した例で、浄明寺の奥に石窯ガーデンというパンやピザがいただける有名なお店ができていたりしています。つまり土地の所有者が個人なのかお寺なのか等、土地の持ち方にもよりますが、もう少しいろいろ話ができるので、次のステップでどのような話が出るのか楽しみにしています。

高梨委員

- 先程少し出ました里山の話も気にはなっているところで、持っている方との関係は同じ案件だと思います。特に天災の後の整備、崖が崩れた近隣の市等でもそのような状況があったということを見ると、それが全国ニュースになると「そのような町だと怖い」となるのも怖いです。
- 資料1-3改善継続の表で、No.183「葉山の魅力創生・発信事業」とありますが、No.184ではないでしょうか。表の齟齬だと思われまますのでご確認ください。
- 資料1-3 No.184 葉山の魅力創生・発信事業」では、里山についてもフィールドの確保をというところを魅力再生に出してくれていますが、確保だけでなく全体的な整備や危険箇所の洗い出しも必要だと感じました。

事務局（大前係長）

- すみません一行ずれております。了解しました。

臼井会長

- 資料1を中心に意見を伺いました。他に特になければ議題2に移りたいと思えます。

(2) 令和3年度葉山町まち・ひと・しごと創世総合戦略（具体的施策）の進捗状況表について

臼井会長

- 事務局より資料説明をお願いします。

事務局（大前係長）

<資料2 令和3年度葉山町まち・ひと・しごと創世総合戦略（具体的施策）の進捗状況表>

- そもそも「葉山町まち・ひと・しごと創世総合戦略」ということで、町の総合計画に合わせて平成27年度に策定し、その後令和3年度から第2期葉山町まち・ひと・しごと創世総合戦略という

位置づけをさせていただいております。本日机上配布しました「まち・ひと・しごと創世総合戦略 施策の振り返り結果」の一覧表に全体のまとめがあります。総合戦略は基本目標に3つの柱がありそれぞれ7つの施策が紐づいているので全部で21施策があります。この総合戦略については、国からも町の総合計画があればそれを抜粋した形で作成しても良いということで、ほぼ総合計画の抜き書きのような形で柱を組み合わせたものになります。今回、評価として施策によっては「達成した」（順調です）といったものでも良いのではということもありますが、各課にヒアリングや問い合わせをしたところ、奥ゆかしい課もあり「まだまだです」というところもあるし、「目標数値的にB評価で良いのでは」と思っているところもあり、「Aでいけます」というところもあり、肌感覚に合わない齟齬があるかもしれませんが、ご承知おきいただければと思います。令和3年度の振り返りは、21施策のうち「達成した」（順調）が7施策、「概ね達成した」が9施策、「達成できなかったが達成に向けた取り組みが明確」が5施策、「達成できなかった」はゼロです。

- A3版2頁目、一つ目の柱 「基本目標1：施策：地域が生き生きと元気な活力にあふれ、ひとを集めるまち」の動きのあるものについて簡単に説明します。施策1：葉山ブランドの発展について、こちらは「葉山ステーション」が南郷にできており、開設以降今まで順調に推移してきましたが、コロナ禍により令和元年度は67万人の集客力はあったのですが、令和2年度、表では期間外になりますが57万人まで10万人ほどダウンした状況になっていました。しかし令和3年度は約61万7千人と4万人ほど増え、少し底を打ったというかV字回復を少し客足が戻ってきたかという傾向がわかりました。またコロナのお陰と言って良いのかわかりませんが、施策4、先程福安委員や近藤委員からお話があったように「葉山らしいライフスタイルの発信」という町の移住、定住の部分のサイトがあるのですが、その閲覧数が大幅に伸びております。リモートワークが定着する中、葉山町に住んでみようかと考える方が増えているのではないかと推測しています。実際、転入者も令和2年、令和3年と転出より転入の方が多という経緯もありました。ただ、不動産屋に聞いても売れる物件がないという困った状況に陥っているという実情であります。また、新たな取り組みとして、令和3年度に総合戦略を元に地域再生計画を国に提出しそこから認定をいただき「企業版ふるさと納税」を葉山町で活用できるようになりました。企業版ふるさと納税とは、企業が自治体に寄付することにより、寄付額の9割の法人関係税が控除できると制度改正があり、企業にとって非常にメリットがある制度になっております。この結果、令和3年度は2企業から合計310万円の寄付をいただくことができ、一つは先程高梨委員が言われた里山の事業に当てさせていただくのと、もう一つは消防車両の新たな購入資金に充当させていただきました。
- 次に「基本目標2：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるまち」という分野になります。こちらのトピックとしては、1番の「子育て支援サービスの充実」になります。待機児童数は目標値までまだ届いてはいませんが、令和元年度より改善して30名ほど減った形になります。理由としては、令和3年度に、町立保育園の利用定員数を少し拡大したことや、現状で言うと、

町立保育所以外のところの幼稚園にも依託入所児童数が増えていることが待機児童の減少につながっています。

裏面、施策7「男女協働参画の推進」の結婚の分野ですが、葉山町では令和2年度からパートナー制度という宣誓制度を設け、所謂、性的マイノリティーの方でも婚姻制度にとらわれずパートナーとして夫婦と同様の取り扱いになるような仕組みを作っています。こちら令和2年度は5組の方、令和3年度はゼロ組、今、令和4年度は1組ということで今迄に全部で6組のパートナーの方が宣誓をしている状況です。今回、県の取り組みで「恋する神奈川」、略して“恋カナ”というプロジェクトがあるのですが、そちらに町のホームページからリンクで飛べるようにしており、結婚を推進しているのですが、今回指標にある「ホームページの一覧数」が大幅な減少になっていて目標に届いていない状況です。県に「恋カナ」の状況を確認したところ、最近はコロナの影響もありセミナーや街コン等に実際に出向くよりもマッチングアプリを使う方が非常に多く、このような制度を使わない方が急増している事情があるようです。町の若者と言っても葉山町の特徴として10代後半から20代の方が大学進学や就職のために一度転出してしまふ。でも結婚してお子さんができるとう葉山町に戻ってくるという事情もあり、町としては結婚にウエートを置くより移住定住で戻ってきてもらう方にウエートを置いた方が良いのかと個人的には思っています。

- 頁を捲りまして「基本目標3：時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るまち」という分野になります。こちらのトピックスは、施策3「防災に強いまちづくりの推進」です。新型コロナウイルスの影響で町内会等の防災訓練のような目標数値は達成できなかったのですが、防災メールの登録件数は1,000件近く伸びています。しかしまだ目標値の半分位までしか達成していないので、今後、引き続き啓発活動を行なっていく、実際、今年度のビックレスキュー等でもいろいろ周知活動を行なっている状況です。

次に、施策6：「公共交通の環境整備」です。令和3年度中にアンケートを実施できなかったのも、「町の公共交通の利便性に不満を持っている町民の割合」の目標数値を書けなかったのも「-」とされています。令和3年度の取り組みとしましては、旧役場前のバス停の上屋を新設しました。総檜造で銅葺の屋根で非常に立派なものを作らせていただきました。また、役場近くの向原の下り方面のバス停にバスベイスを設置することもでき神奈川県にもご協力いただきありがとうございます。引き続きバス停近くの土地利用があった場合は、タイミングをとらえてこういった環境整備に努めて参りたいと思います。また、令和3年度から葉山町の公共交通をこれからどうしようというところで、葉山町地域公共交通会議を新たに立ち上げ町の公共交通をどのようにしていこうか有識者、バス事業者、タクシー事業者を踏まえて議論を行なっているところで、今後、地方公共交通計画を策定していこうと考えています。駆け足の説明になってしまいましたが以上です。

白井会長

- ご説明ありがとうございました。事務局の説明について意見や質問はありますでしょうか。

高梨委員

- 最後のところで話された公共交通のことは、先ほどのワクチンの話なども無料と言われても接種会場に来るのにタクシーだと1,000円以上かかり、帰るのにも1,000円以上かかると高額なワクチンになってしまいます。大変なのは重々承知ですが、町内の移動が容易になる公共の交通手段があると良いと思っています。

福安委員

- 私も公共交通が気になっていて、お年寄りだけでなく、物件サイトを見ていると駐車場を持ってない場所が多いと思います。他の県や市町村では、国のプロジェクトに提案を出して自動運転等、POCを用いて実際に実証実験をやっているところがあります。そのようなことに取り組んでいただけると良いと思います。車がないと不便な町なのは厳然たる事実なのでよろしくをお願いします。

事務局（大前係長）

- おっしゃる通り、例えばA Iタクシーやオンデマンドタクシー等、様々な社会実験を行なっています。当然、町の公共交通会議の中でもそういったものを取り入れたらどうかと葉山町の実情にあった施策はどのようなものか、総合的に検討しておりますのでしばらくお待ちください。

事務局（大屋主任）

- 補足をさせていただきます。私は公共交通担当しており、地域公共交通会議も開催させていただいているところですが、今年度の動きは、町民アンケートを実施し、18歳以上の町民無作為で1200人抽出し640件の回答をいただきました。分析まではまだできていませんが、実際の具体的なニーズや不便な場所の把握できればと考えております、そもそも町の特性として長柄の葉桜、イトーピア方面もそうですし、パーク・ド・葉山四季、一色台団地、下山口のエリアは、基本的にバス停から300m以上離れるエリアがとても多かったので、ルートがない等の問題が顕在化していることは承知している中で、あえて町民の皆様のさらなる具体的なニーズを伺えればという思いでアンケートをしています。そのアンケート結果の分析を踏まえての計画策定と、プラス具体的にどのような施策が良いのか検討して参ります。

事務局（佐野課長）

- もう一つ、先ほど、国の補助金をいただいて実証実験を行なっていると言いましたが、国は計画に紐づけないと補助金を出さないということで策定する運びとなっているなか、令和6年度に計画を作ることになっているので、そこで具体的に盛り込みながら実証実験を始められると思っています。

八木委員

- 基本目標2 No.7「男女共同参画の推進」のところで、目標値が千単位になっていて半分にも満たない状態なのですが、この計画のまま令和5年度、令和6年度といくのでしょうか。この「恋カナ」プロジェクトが芳しくないという報告がありましたが、他のものに替えたりすることは可能なのでしょうか。

事務局（大前係長）

- 実施計画上、この目標で令和6年度までいくという指標を立ててしまったので、基本的にはこの施策で目標数値を見ていくのですが、これだけではなく推進という幅広い意味で、例えば男女平等の経済的DV等の話の啓発活動を行うことも含めていきます。あくまで指標の一つに過ぎないというかピッタリする指標が見つからなかったという実情もあります。ただ、この数字は数字として追う形になります。

八木委員

- わかりました。ありがとうございます。

事務局（佐野課長）

- 総合計画も含めて所謂目標数値は、KPI 値という形で国からこれを作るために何か載せなさいという話があり設定していますが、時代の変化に計画が追いついていない実態と乖離した KPI 値になってしまうことに、第五次をどう考えるべきか今、頭を悩ませています。第四次の時に初めて目標数値を取り入れてスタートを切りましたが、先ほどの振り返りを見てもこの事業の目標としての KPI 値で良いのかという部分も含めて次は目標数値を立てるための提案をさせていただき意見をいただきたいのでよろしくお願いします。

臼井会長

- 今の見直しはとても大事なことだと思います。本当に目標数値を作るのが国も含めて大好きですが、目標数値に合わない類のものに目標値を付けてもしょうがない。ここで言えば、イベント情報の趣旨に関わる閲覧回数や件数が何件だったら良いのかなど誰も言えません。逆に言えば、結婚という形態を取って一組の性別は問わず一組の生活することをどこまで奨励するのか、それを行政がやる仕事なのか、そのようなことを考える時にその数値目標を取っていなかったからどうなのかという話です。逆に言えば合わないものとしてきちんと位置付けてどうするかという議論をしておいた方が良いと思います。昨年度から読み込んでいた文献では、このようなものを目標数値で処理しようとするのは男性側の立場である。目標数値で何かを出すとその数値目標の指標に関してでしか見ないわけです。おそらく事柄によって行政課題はいくつかの要素に分けられるはずだが、そのいくつかの要素の殆どのものを詐称して適当かどうかわからないある一つの指標にこだわるのはよく考えると可笑しい話です。それを良しとしてやってしまうのは、体系序論で言うと、ケアの倫理と言いますが、それは馴染まない。一つの指標に絞って評価する、ところが理屈だけでものを考えて作った施策は逆に理屈を考えた時、理屈の乗って立つ場所が何かあり、そこに基づく適当な指標が見つかることはあるが、それは非常に珍しいことで、繰り返しになりますが、それがいくつもの課題がある中でたった一つのことに評価軸を絞る事が適当なのかももう1回皆が意識しないといけない話だと思います。次の計画の時は是非それをやりましょう。意味はわかりましたか。複数の課題があってそれを解決するためにまずできることとしてこれをやりましょうという話の時にさらにそこで指標にしたものがそぐわないと初めの課題設定も合わなく

なってしまうことを昨年勉強した時のいくつかのことで非常に納得しましたので、次の計画策定に活かしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

高梨委員

- 今の計画策定の話で、指標を作ることと同時にその指標に向けての達成の進み方が毎年同じペースでいくものなのかそうでないものなのか、今日の最初にも例えば、50%切っているけど大丈夫か、この10年計画の7～8年目でまだ20%台だけど大丈夫という指標が評価をしようとした時に少し読み取りづらいので、できれば私達が見られるものにも「このような根拠でこのような数字、指標が出ています」という資料がほしいです。一つひとつここで説明するのは難しいと思うので、資料としてついていると心配なものを見る時に「こう言うことだから今この%で大丈夫なのだ」となるし、あるいは「これは、前提指標はないけれどもこのようなポイントで見ていくから大丈夫」と言うような形になると良いと感じました。特に振り返りを見ようとした時に空欄が多い事業が多く、そうした時、有効性と効率性と方向性が本当にそれで良いのかどこを根拠に見たら良いのかわからないことが実情としてありましたので、大きな変化をする次の時にそういったところが見られるようにしていただけると嬉しいです。

臼井会長

- ありがとうございます。まち・ひと・しごと創生総合戦略についての議論はこのくらいにさせていただいて、次の議題に進みます。

(3) 第五次葉山町総合計画について

事務局（大前係長）

- 今は第四次総合計画後期基本計画を説明していますが、令和7年4月から第五次総合計画が始まろうとしています。第五次総合計画は令和6年度中に策定したいと考えております。令和4年度は、今後、大きなこととして町民アンケートの実施と町民ワーキングの開催を予定しております。町民アンケートは机上配布の資料にあるように、対象は町内の18歳以上の方から無作為抽出して1500人で実施します。町民ワーキングについてもアンケートとは別に1500の方を対象に手紙を出し、町政分野のまちの強みや弱み、これからどのような方向でいったら良いのか皆さんのアイデアを是非聞かせて欲しいと案内させていただき50人程度の方にいろいろ直接ご意見をいただきたいと計画しています。この2月から3月にかけて2回程度開催できたらと考えております。今日、皆様に見ていただきたいのは、町民アンケート案を作りましたが、これで良いか確認いただければと思います。
- 簡単に説明をすると、全部で27問、Q1からQ11までは回答者の属性です。特にQ1性別は前回、町議会の特別委員会からも性別は敢えて聞く質問はあるのかと聞かれましたが、町に対する意見を男性女性の性差によってどのような違いがあるのか分析したいところもありますので、敢えて設問として設けさせていただきました。でも性的マイノリティーの方にも考慮させていただき3

番にその他の選択肢を記載し、そもそも回答したくない方は4番に丸をつけていただくように配慮しています。そしてQ12については、町の強み、弱みについて、それぞれ思っているところを3つずつ回答していただく形で毎回強み・弱みを確認しています。Q13では、新しい項目として第四次総合計画が始まった10年前と比べて現状はどうですか、町の第四次総合計画の施策ほどの程度みなさんの生活に寄与しているのか総括的に聞きたいというところなんです。Q14は、こちらも初めて聞く設問で、ストレートに「葉山町に住み続けたいですか、そうではないですか」を聞きたいと思います。住みたいまちランキングで上位に位置していると信じているのですが、実際皆様のご意見はどうなのかを聞いてみたいと思っています。Q15で住み続けたいと思える町で今後、どのようなことが必要なのか、第五次総合計画に向けたところで聞いてみたいと思っています。Q16はまちづくり指標について、こちらは第五次総合計画とは少し離れてしまっているのですが、第四次総合計画の目指そう値、指標の話になってしまいますが、町民アンケートでないという回答が得られないところがありますので、今回のアンケートで聞きたいとこの項目をつけました。

- 頁をおめぐりいただき4番です。現行の施策の満足度及び今後の重要度でとても長くボリュームのある部分になります。今までのアンケートですと施策の満足度とお金の掛け方で聞いておりましたが、今までは、町の予算の総額を提示しそれを人口で割り一人当たりの値段を載せていたのですが、前回の総合計画のアンケートの中で町民の方から金額だけ示されてもわかりにくいというご意見をいただいたので、その項目はやめて、満足度と今後の重要度で町がどの施策に注力していったら良いのか聞いてみたいと思っています。今回、第四次総合計画では47の基本施策がありますが、教職員の研修、町の職員の研修等の内部管理の部分は除いて41の項目について皆様の意見を率直に聞いてみようとするような質問にしております。これもボリュームがあるのですが、次に13頁、5番まちづくりの具体的な方向についてということで、ここから第五次に向けて本腰を入れて聞いていきます。Q18「町に関する情報入手方法で、あなたが重要だと思う手段は何ですか」で、今後町が情報発信をする際にどのメディアに注力すべきかを皆さんに聞きたいと思っております。広報葉山もおかげさまで5年連続県内市町村の広報コンクールで入賞しておりまして、全国でも昨年度は総務大臣賞を取らせていただいております。きっと皆さんに広報葉山をしっかり読んでいただいていると良いのですが、実は町内回覧の方をよく見ているというご意見があるかもしれません。いろいろなご意見があると思いますので、そこを確認させていただきます。Q19「町民や企業、団体（以下、町民等）と行政が協働してまちづくりを行う上で必要だと思うことは何ですか」ということで、第四次総合計画の柱である「協働」というものがあるのですが、それをさらに深化させていくためにどういったものが重要なのか直接住民の方に聞いてみようと思っています。Q20「効率的・効果的な行政運営を行う上で重要だと思うのは何ですか」ということで、こちらも町民の皆さんから実際のご意見を聞いてみたいと思っています。そしてQ21からは世代間別の設問になり、Q21は子どもたちの将来に必要なことは何ですか、Q22は若者にと

ってはどうですか、Q23は子育て世代に必要なことは何ですか、Q24は健康や福祉について、ということで、どちらかというとな配の方に必要な施策は何かを聞いていきます。Q25、Q26は今後、町が魅力を持っていろいろな人に来てもらいたい、借りてもらいたい、いつか住んでみたいと思わせる施策が何かを考えた時、やはり葉山町は自然環境が非常に良いと思っています。総合計画のアンケートでも毎回自然が豊かだというのが最上位にくるので、特に環境に配慮したまちづくりが重要になってくると思っています。そのような中、町民の皆様にこれからさらに環境を良くしていくためにはどのようなことをやったら良いのか聞くのがこの設問です。その中で町民のみなさんにこれからさらに環境を良くしていく上ではどのようなことをやったら良いかを聞くのがここです。Q26も今後、選ばれる町になるためには、「教育」「環境」「安心安全」が一つのキーワードかと思っています。いくら魅力ある町でも自然災害に見舞われやすい、防災の機運が高まっていない、防災の危険があるところには皆さん住みたくないと思います。防災のまちづくりを今後もさらに進めていくためにどういったまちづくりが必要なのか重要なのかを聞きたいと思っています、最後のQ27は最後に第五次総合計画に向けて何かキーワード、キャッチフレーズ等、どういった言葉が葉山町を表す良い言葉か聞いてみたいと思っています。当初、漢字1文字で書いてもらおう等、アイデアもあったのですが、少しハードルが高いということで、言葉やキャッチコピーで書いてもらい我々のヒントにさせてもらえればと思っています。こういったものをこの週末か来週頭に発送して2月中下旬位までに出していただき集計を行い、次回審議会で委員の皆さんに結果を報告できればと考えております。アンケートの設問や手法について何かご意見があれば伺いたいと思いますのでよろしくお願いします。

臼井会長

- 説明ありがとうございました。アンケート調査の協力のお願いと、先に向けてのワーキングの話はなかなか発言しにくいと思うので、アンケート調査について何か皆さんからご発言があれば。

高梨委員

- 細かくて恐縮なのですが、問16からのまちづくり指標の質問で、『これまでの変化』というのがどこの変化に対しての話なのか、問13のように『あなたの住んだ時』あるいは『10年前と』と同じように書いた方がわかりやすい。あと、「目指そう値」がわからなくて説明はあるのですが、値の満足度を聞かれているのか、項目名なのかわかりづらい気もします。満足度が何%なら満足なのか聞いていることなのかと感じてしまいそうなので、かえって項目だけとか、目指そう値を初めて見る方がわかりやすい説明があった方が良いかと思います。
- 問24「健康や福祉」について、誰の健康や福祉なのか、例えば、葉山町の町民の健康や福祉が守られるということだと思うのですが、それがわかる趣旨の文章が入っている方が良いかと、下の環境も「葉山町の環境」と聞くと都市環境のこともあったり、対人の環境もあったりするのに、下の選択肢は自然環境に限定しているように読めるので、例えば、「自然環境の保全のために」等、もう少し具体としての質問が良いのかとざっと見て思いました。

臼井会長

- 今のご意見は間に合うと思うのですがご検討ください。先ほどの比較の話ですが 10 年前が良さそうですね。

高梨委員

- もう一つ、問 12 の文言だけなのですが、「住みにくい」の弱みの方の選択肢が、「自然が保全されていない」となっている時と「低下している」と変化を聞いている時があり、その混在が気になります。「昔はよかったのに」を聞いているのか、それとも「今、弱い」ということを聞くのか、どちらかに統一した方が良いと思います。ただ、ここは現状を聞いた方が良いと思うので、「低下している」の言葉は避けた方が良いと思います。

臼井会長

- 今のところは結構大事なところですよ。判断の基準は時間経過で町民の方が動いていることもあるので、今、足りていると思っているのか不足しているのか聞くのが良いと思います。

高梨委員

- 問 12 はそれを聞きたいはずなのでバイアスが入らないようにした方が良いと思います。問 13 については恐らく後ろの方で追いかけていきたいのだらうと思います。よろしくお願いします。

近藤委員

- アンケート対象人数が 1,500 名というのは葉山のルールなのでしょうか。100 周年も挟んで次の第五次を作るのに、これがトレンドなら仕方ないけどせっかく作ったアンケートなのでもう一踏ん張りすれば、予算的にどうなのかわかりませんが、どうなのでしょう、3 万 3 千人の町で 1500 人をアンケート抽出というのは、アンケートで良いのかということもありますが。

事務局（大前係長）

- 1500 という数字は、人口 33,000 人に対して統計上問題ないサンプル数で出しています。正直、もう少し少なくても大丈夫なのですが、おっしゃる通り多ければ多いほどより統計の精度は高まる事実ではありますが、今回、予算の関係もあり 1,500 人で取らせていただく現状があります。

高梨委員

- 町民に限定して QR コードから入れるネットで回答できれば予算は削減できると思います。例えば高等学校等で取っていただく等は、年齢が下がってしまいますが、そのような形の二次元コードで行えば学生や生徒さんは簡単にできるのではないのでしょうか。

事務局（大前係長）

- 1 点説明し損ねてしまったのですが、来年度、小学生と中学生には現在タブレットを使用していますのでタブレットを使ったアンケート調査を実施したいと考えております。

臼井会長

- うまく処理してくださいね。特定の学校を使ってアンケートを配布して小学生の回答してもらおう

と集団の属性を示していないから、アンケートのやり方としては不適切になってしまいます。それは適当な結果なのかと問われてしまいます。1,500 という数字は、恐らく 1,000 を少し超えたところで母集団の属性を概ね 97%位の可能性で性質を表しているというものが統計上の話だと思います。それは条件があり、集団が特定のところに偏っていないという状態で選んであげないと疑わしくなってしまいます。先ほどあったように女性だけにアンケートを取ったり、高齢者だけに取ったりするとそれは集団が葉山町の特長とは違うものになってしまうので、アンケートを実施しても良いけれども取る時には、きちんとバイアスがかからないように使わないといけないと覚えておいてください。

事務局（大前係長）

- 小学生中学生に聞くアンケートにつきましては、当然、今年度実施のものとは別の形で実施します。

臼井会長

- ということは、小学生中学生に対して行政がどのような仕事をしているのか、行政が何か決める時にはちゃんと町民の意見を聞いているということを知ってもらう上でも意味はあるのですが、アンケート調査の結果を計画にどう入れ込んで考えるかはまた別の話でよろしくお願ひいたします。よろしければ、いくつか意見が出ましたので、実際にやるまでの間に慌ただしいですがご検討ください。最後まで議論ができあとは「その他」が残っております。事務局からお願いします。
- アンケート Q17 満足度の設問の文言は「これまでの変化」については、「10年前と比較して」とするのが良いと思います。

（4）その他

事務局（大前係長）

- 令和4年度の総合計画審議会をもう1回3月下旬に開催させていただきたいと考えております。日程を3月下旬に予定したいのですが、年度末のお忙しい中本当に申し訳ありませんが、候補日は3月24日（金）、3月28日（火）、3月30日（木）から選んでいただきたいです。

・・・・・・・・ 3月28日（火曜）午後10時～ 協議会室1 に決定・・・・・・・・

事務局（町田部長）

- 先ほどの（3）の議題のところを話しようと思っていたのですが、冒頭の私の挨拶にも変化の激しい一寸先、1年先の闇の激動の時代の中で計画とどう向き合っていくべきなのか悩んでいるところです。次回、年度末の会議で恐縮なのですが、審議会で皆さんに話し合っていたきたい項目を出させていただきます。
 - 変化の激しい時代の中で、そもそも計画期間を何年にするのかという答えを我々は見出せないなので、まずは「計画期間の捉え方」について
 - 第四次の時は人口推計については3万3千人を維持するところなのですが、人口が減っていく

ことは避けられない状況の中で人口推計がどのようになっていくか

- あとは先ほどから議論しております、目標数値、活動指標の考え方、そもそも活動指標はいるのかの話で、計画を策定した時の達成の手法は、第四次総合計画は皆さんにご案内の通りすべての施策に「協働でできるまち」と書いてありますがそもそもそういった手法を全てにとれるのか
- この辺りは我々課長、部長も含めて皆さんの意見をどうしても聞きたいところであります。アンケート結果と令和5年度の予算もお示しできますのでそれを見ながらこの辺りを中心にご意見を伺いたいと思います。大枠だけお話しさせていただきました。よろしく願いいたします。

臼井会長

- 「計画期間をどのように考えるのか」
- 「人口の設定をどうするのか」素直に普通のトレンドで読んで良いのか、そうすると減っていく話になるので良いのか
- 「数値目標の考え方をどうするか」
- 「達成の手法」
- この4点を中心にディスカッションしたいと思います。

事務局（町田部長）

- ぜひ、ご意見をいただけたら幸いです。

4 閉会

臼井会長

- これで「令和4年度第1回葉山町総合計画審議会」を閉会と致します。皆様、お疲れ様でした。

終 了